

はじめに

「この美しい場所は、だれのものなのでしょうか。だれのものでもないの。みんなのものよ」

生誕100年のフィンランドの児童文学作家、トーベ・ヤンソンの「ムーミンパパの思い出」にある言葉に北欧の深い思想を感じる。

*

2011年3月11日、M9の巨大地震と原発大事故があった。できることは何でもやろうと、全障研など障害者団体も現地の人びとにところをよせて、力をあわせた。

「ペナペナのボール紙でつくったような世界にいたことを、頭はまだ納得していなくても、身体は感じている。そして、今日の東京は不気味な雨が降っている」

当時のわたしのメールだが、基本的な状況はいまも変わっていない。

翌年の1月、デンマークのユトランド半島の訪問先では、「よく来たね!」「日本はだい

じょうぶなのか?」「なにを協力したらいいか?」など、ここから歓待してくれた。現地
でコーディネートをしてくれたアルヴィッドは「デンマークは日本を応援します」の障害
者団体による3・11支援活動のリーダーだった。

デンマークはチェルノブイリの重大事故から学んで脱原発の国づくりをはじめた。ドイツ
はチェルノブイリをはるかに越えるフクシマの重大事故から考え脱原発を決めた。日本の現
政権は再稼働反対の多くの市民の声に反して再稼働をすすめ、他国に原発を売り込もうと
している。その違いはなんなのだろう。

「幼稚園のときから相手と議論し、話し合っただけのごとを決めることを学んでるよ」
民主主義の基本をアルヴィッドは笑いながら言っていた。

*

幸福度世界一といわれるデンマーク。でも、ヨーロッパでも指折りの美しい街といわれ
たコペンハーゲンの印象はだいぶ変わってきている。落書きは塀だけでなく、ビルにも電
車にも、いたるところで見かける。ゴミ収集には民間業者も入ったようだが、ゴミは多い。
繁華街では白昼スリにあう。移民の受け入れは10%を超えた。スウェーデンのストックホ
ルムの雑踏でも感じるが、「市場原理」を至上の価値とする「新自由主義」の荒波の中にあ
る世界政治・経済と北欧の街もつながっている。

*

「なにを求めて、この20年で10回以上も北欧を旅してるのですか?」
と聞かれることがある。

「ここらの深呼吸のためです」につづいて、

「世界はすぐ変わってて、北欧もすぐ変わっている。とりわけ北欧は、決めたことに
はすぐ着手し、問題があればすぐに修正する。でも、その変わる中でも、変わらないもの
があり、それを見つめたいのです」

「小さな町の、そこに生きる障害のある人や関係する人たちから、だれもが幸せに生きら
れる。幸せのものさし」を感じたい」

*

前著『北欧 考える旅 ―福祉・教育・障害者・人生』は、それまでの旅で学び考えた
ことを2009年春にまとめた。以降の北欧への旅は、NPO法人発達保障研究センター
が企画する北欧研修ツアーとして続けている。品川文雄同センター理事長は、この北欧研
修ツアーの魅力を4点あげている。

①日本の障害者権利保障運動を中心となっただけという自覚のもと、今日的視点で、
北欧の現状、施策、課題を見つめてきた。②行政担当者の解説やデータ紹介を聞くだけで
はなく、できうるかぎり、現場担当者の生の声、障害者本人の話を、その場で聞いて感じ
ることを大切にしてきた。③デンマークやフィンランドに「定点観測地」をいくつか定め、

その変化を感じ、知るとともに、その意味を考えてきた。④旅の仲間たちが、訪問先で感じ、考えたことを率直に語り合ってきた。それによって、互いの学びの視点を深めてきた。本書は、そんな北欧研修ツアーの成果と課題を盛り込んで構成している。I 住まう、II 学ぶ、III はたらく道らく、の大きな3つのテーマに迫っていききたい。

参考資料として、「障害者権利条約批准への歴史と今後の課題」を付録した。権利条約の訳は公定訳を使用した。この間、障害者自立支援法違憲訴訟の勝利的和解（2010年）と、障害者権利条約批准にむけた制度改革議論がすすめられた。わたしは任務としてほとんどの場に同席し、記録し、情報を発信してきた。

*

成田空港を発って9時間半。

「天空の城ラピュタ」のような白く厚い雲の下に、フィンランドの森とたくさんの湖が広がってきた。

池添素さん（全障研副委員長）からケータイにメールが入った。

「混沌とした日本の現状に、希望のモデルを提示することはとても大事です」

目次

はじめに 3

住まう

- 1 クロンボーフスの20年 12
- 2 なかまと生きる 20
- 3 ダニーとギッテの家庭 28
- 4 大規模施設・スーロンの今 34
- 5 障害と支援 42



学ぶ

- 6 オーロラ小学校のインクルージョン 52
- 7 特別学校と統合教育（インテグレーション） 60
- 8 就学前の教育 67
- 9 貧民街の希望の学校 72
- 10 グルントヴィと国民高等学校 80

はたらく道らく

- 11 余暇は人権 92
- 12 罪と罰 100
- 13 はたらく道らく 106
- 14 税と自治と民主主義 114

付録

- 障害者権利条約批准と今後の課題 124

- おわりに 137

- スポット1 出生率の秘密 48
- スポット2 放課後の時間 88
- スポット3 ヤマナラシの丘で 122

カバール絵 深井せつ子（画家）「幸せの馬と子どもたち」
 写真 藺部英夫

